北杜市埋蔵文化財調査報告　第10集

山梨県北杜市

KUROSAWA-SITE

黒沢遺跡　第1・2次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会

山梨県北杜市

KUROSAWA-SITE

黒沢遺跡　第1・2次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005.3

山梨県北杜市教育委員会

例　言

1. 本書は、1997・1998（平成９・10）年に実施した山梨県北杜市武川町（調査当時、北巨摩郡武川村）黒沢字下原地内に所在する黒沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の現地発掘調査期間は以下のとおりである。
第１次 1997年12月１日～1998年３月17日
第２次 1998年４月30日～1998年９月１日
3. 発掘調査は、個人住宅建設に伴う事前調査であり、㈱東営不動産より委託を受けて当時の武川村教育委員会が直営で実施したものである。
4. 発掘調査は竹田眞人・三宮健が担当し、本書の執筆・編集は坂口広太が行った。
5. 発掘調査において空中写真撮影は株式会社フジテクノに委託した。
6. 遺物の写真撮影は佐野隆が行った。
7. 石器の石材鑑定は村松佳幸が行った。
8. 本書に関わる出土品及び記録図面・写真等は北杜市教育委員会にて保管している。
9. 本遺跡の調査及び報告書作成に際し、旧北巨摩市町村担当者会の皆様をはじめ多くの方々にご指導、ご教示を賜った。遺漏のあることをおそれ、あえてご芳名を列挙しないが、改めて感謝申し上げたい。
10. 発掘調査及び整理作業参加者
雨宮明子、石原すみえ、井手研二、井手正美、遠藤実千代、小畑忠雄、川崎東洋雄、栗原ますみ、國分聡、小林慎子、猿田定雄、清水泰倫、鈴木照香、鈴木みつじ、高野和彦、千葉毅、筒井つや子、長尾宗史、畠山已幸、平林美保、眞岡真理了、矢野容子、山中敏夫、溝口よし子　（敬称略、五十音順）

凡　例

1. 掲載した地図は、国土地理院発行５万分の１地形図「韮崎」と旧武川村役場発行５千分の１平面図１を使用した。
2. 掲載した遺構・遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりである。
（遺構）調査区全体図1/150、竪穴住居跡1/60・1/40、炉跡1/20、土坑1/30
（遺物）土器1/4・1/2、土偶1/3、石鏃1/1、石匙他小型石製品1/2、その他石製品1/3
3. 遺構断面図中ポイントドの数値は標高を示す。
4. 遺構覆土色・土器胎土色等は『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。
5. 住居跡平面図における柱穴内の数値は基準床面レベルからの深さ（cm）である。

目　次

例言・凡例
目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第1章　調査の経緯と概要……1
1.　調査に至る経緯……1
2.　調査の概要……1
第2章　遺跡周辺の環境……1
1.　地理的環境……1
2.　歴史的環境……1・2
第3章　発見された遺構と遺物……2
1.　基本層序……2
2.　遺構と遺物……2－4
第4章　調査の成果と課題……4
《参考文献》……4

挿図目次

第1図　北杜市武川町遺跡分布図……5
第2図　黒沢遺跡周辺図(上)・調査区位置図(下)……6
第3図　調査区全体図……7
第4図　1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡……8
第5図　5号住居跡……9
第6図　6号住居跡・7号住居跡……10
第7図　8号住居跡・9・10号住居跡……11
第8図　1～9号土坑……12
第9図　1号住居跡出土遺物……13
第10図　1号住居跡・2号住居跡出土遺物……14
第11図　2号住居跡・3号住居跡・4号住居跡出土遺物…15
第12図　4号住居跡・5号住居跡出土遺物……16
第13図　5号住居跡出土遺物……17
第14図　5号住居跡出土遺物……18
第15図　5号住居跡出土遺物……19
第16図　5号住居跡出土遺物……20
第17図　5号住居跡・6号住居跡・7号住居跡出土遺物…21
第18図　7号住居跡出土遺物……22
第19図　8号住居跡・9・10号住居跡出土遺物……23
第20図　9・10号住居跡・遺構外出土遺物……24
第21図　遺構外出土遺物……25
第22図　遺構外出土遺物……26

表目次

第1表　土坑一覧表……3
第2表　土器観察表……27
第3表　石器観察表……28・29
第4表　土製品観察表……29
第5表　遺構別土器一覧……30
第6表　遺構別石器一覧……31

写真図版目次

図版1　黒沢遺跡調査区遠景（東から）……33
図版2　黒沢遺跡調査区近景（東から）……33
図版3　第1次調査風景……34
図版4　1号住居跡遺物出土状況……34
図版5　1号住居跡完掘状況……34
図版6　2号住居跡完掘状況……34
図版7　3号住居跡完掘状況……34
図版8　第2次調査風景……34
図版9　5号住居跡遺物出土状況……34
図版10　土偶左足出土状況（5号住）……34
図版11　5号住居跡完掘状況……35
図版12　5号住居跡炉跡半截状況……35
図版13　6号住居跡（敷石住居跡）検出状況……35
図版14　6号住居跡埋甕検出状況……35
図版15　6号住居跡堀り方検出状況……35
図版16　6号住居跡炉跡奥砂利検出状況①……36
図版17　6号住居跡炉跡奥砂利検出状況②……36
図版18　7号住居跡遺物出土状況……36
図版19　7号住居跡完掘状況……36
図版20　8号住居跡遺物出土状況……36
図版21　8号住居跡完掘状況……36
図版22　9・10号住居跡完掘状況……36
図版23　波形土器出土状況（9・10号住）……36
図版24　前期前半の土器①……37
図版25　前期前半の土器②……37
図版26　前期前半の土器③……37
図版27　出土土製品……37
図版28　中期中葉の土器……38
図版29　中期後半の土器……38
図版30　出土石器①……39
図版31　出土石器②……39
図版32　出土石器③……40
図版33　出土石器④……40

第１章　調査の経緯と概要

１．調査に至る経緯

第１次調査

平成９年８月、㈱東営不動産から武川村（現北杜市武川町）黒沢字下原1716・4・1725・1・1726・7番地の個人住宅建設に関して事前協議が武川村教育委員会にあった。村教委は当該計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため文化財保護法に基づく届出が必要である旨回答した。これを受けて同年９月１日、㈱東営不動産から県教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘の届出があり、村教委は12月２日より試掘調査を実施するに至った。試掘調査の結果、３箇所で住居跡と思しき落ち込みが確認されたため発掘調査を行った。降雪等により作業の行えない日もあったため、調査が終了したのは翌年の３月17日であった。調査後は継続して整理作業を行い、平成17年３月31日に終了した。

第２次調査

平成10年４月、１次同様㈱東営不動産から武川村黒沢字下原1723-1・1723-2番地の個人住宅建設に関して事前協議があり、村教委は当該計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため文化財保護法に基づく届出が必要である旨回答した。これを受けて同年４月20日、㈱東営不動産から県教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘の届出があった。当該地は１次調査地に隣接しており、遺構が密に存在することが予想されたため、本調査を実施するに至った。調査期間は４月30日から９月１日である。調査後は継続して整理作業を行い、平成17年３月31日に終了した。

２．調査の概要

１次調査は上区の任意の地点にトレンチＡ～Ｅを設定し、個別遺構が確認された箇所のみ本発掘調査を行った。

２次調査は１次の調査結果から遺構の存在が予想されたため、最初から上区全面の表土剥ぎを行った。

１次・２次ともに調査面積が比較的に狭かったため、グリッド杭は打たず、任意に杭を数本打ち、光波測量機や平板を据える基準点として使用した。表土剥ぎは基本的に重機で行い、遺物が出土した面から人力で掘り下げた。遺物の取り上げは原則的に光波測量機で行い、遺構は平板及び簡易遣り方による手実測で図化した。また調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査の結果、縄文時代前期前半・中期中葉・中期後半の遺構が検出された。なお調査終了後に周辺の表面採集を試みたところ、周知の埋蔵文化財包蔵地外からも土器を拾うことができたため、包蔵地範囲を若干修正した。

第２章　遺跡周辺の環境

１．地理的環境

北杜市武川町は、山梨県の北西部に位置し、西端は鳳凰山を境に南アルプス市、北端は中山・尾白川・大武川を境に白州町、東端は釜無川を境に長坂町及び須玉町、南端は小武川を境に韮崎市というようにそれぞれの市町村と接している。

甲斐駒ヶ岳北方の鋸山を源とする釜無川は、南アルプスと呼ばれる赤石山脈の前衛である巨塁山地の東縁とほぼ平行して南北に流下している。八ヶ岳火山の爆発によって噴出した火山単積物を浸食し続けた結果、「七里ヶ岩」と呼ばれる高さ50～100ｍにもおよぶ急崖を形成し、この急崖は白州町の国界橋から韮崎市まで距離にして約30kmも続いている。この地域は、フォッサ・マグナの西縁にあたり、糸魚川－静岡地質構造線が釜無川・富士川とほぼ平行して南北に縦走し、この大断層とそれに直行するいくつかの小断層が、この地域の急峻な地形をつくりだしている。

町内の北端を流下する大武川は仙水峠を源とし、武川町牧原付近で釜無川と合流する。その標高差は約1,700ｍで全国でも有数な急勾配の河川で、その傾石空川、黒沢川、小武川など釜無川の支流となる河川も、概して急勾配の河川である。その中でも大武川は、急勾配のため浸食・運搬作用が著しく、昭和34年の第７号台風などでは牧原地区を中心に大規模な土石流に襲われている。これらの大小河川がいくたびかの氾濫を繰り返し、形成されてきた河岸段丘や沖積扇状地は、現在では良質の米などをつくりだす耕地として広く利用されている。

本遺跡は武川町黒沢字下原地内に所在している。現在山高・黒沢集落がある大武川右岸、高位段丘面の東端に立地し、標高は約550ｍを測る。同段丘面は本遺跡周辺において緩やかに南東に傾斜するが、調査地はその中でも比較的平坦な地形である。長年畑地として利用され、長イモやゴボウなどの深耕作物が栽培されていた。

２．歴史的環境

武川町は釜無川の支流、大武川・小武川・黒沢川・石空川など多くの河川が流れている。それらの河川によって形成された河岸段丘や沖積扇状地上には縄文時代から歴史時代まで多くの遺跡が確認されており、真原Ａ遺跡・向原遺跡・宮間田遺跡等いくつかの遺跡で発掘調査が行われている。

律令体制下において本町域は甲斐国巨麻郡に属し、『和名類聚抄』にみえる“真衣郷”の地に比定されている。郷名の“真衣”は“牧”を意味し、７～８世紀にお

ける甲斐国の代表的な牧場地帯であったと思われる。その後奥衣野牧は官牧となり、「延喜式」によれば、"柏前御牧"と合わせ、毎年30疋の馬を献じていたという。

県営開場整備事業に伴い、昭和60・61年度にかけて行われた宮間田遺跡の発掘調査では、町内でも最大規模の平安集落址が発見された。検出された遺構は、竪穴住居跡94軒（うち3軒には小鍛冶遺構が伴う）、掘立柱建物跡45棟、土坑269基である。住居数が最も増加する時期は9世紀末から10世紀の前半である。該期は文献上にみる「駒牽」の行事が最も安定して行われていた時期と重なる。また、「牧□」と書かれた須恵器片や、銅製帯飾り金具の巡方など特殊な遺物も出土しており、本集落が営まれた背景には御牧の存在が想定されている。

黒沢遺跡は平成元年に行われた分布調査で縄文時代・中世の遺物散布地であることが確認されていた。遺跡周辺には実原A遺跡・実原B遺跡・山高遺跡・東原A遺跡など縄文時代を中心とした遺跡が数多く存在している。東原A遺跡では縄文時代草創期と思われる有舌尖頭器が表面採集されている。実原A遺跡では平成2年度神代公園建設事業に伴い発掘調査が行われた。縄文時代中期の住居跡が10軒発見され、深鉢形土器を中心に五領ヶ台式期の良好な資料を得ている。

第3章　発見された遺構と遺物

1．基本層序

調査区内の基本層序は単純である。1層として黒色の耕作土がある。その下に黒褐色の2層があり、主に縄文時代前期・中期の遺物が出土している。3層は黄褐色土で住居跡や土坑の落ち込みは本層上面で確認された。現地表面から遺構確認面までの深さは25～40cmである。長年農地として利用されていたため、耕作による撹乱が著しく、場所によっては住居跡の床面にまで掘削が及んでいた。

2．遺構と遺物

1次では竪穴住居跡が3軒、2次では竪穴住居跡が6軒、敷石住居跡が1軒、土坑が44基発見されている。遺構番号は1次からの通し番号とした。以下発見された主な遺構・遺物について述べていく。

(1)　住居跡

1号住居跡（第4図・第9図）

（位置）1次調査区Cトレンチに所在。　（規模）西壁側半分が調査区外に存在し、攪乱も著しく不明。

（形状）楕円形。　（壁高）45.1cmを測る。　（重複）なし。　（ピット）3本検出。　（床面）広い範囲にトレンチャーが及ぶ。ほぼ平坦。　（炉）地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。　（遺物）覆土中層から下層にまとまって出土。

（時期）縄文時代中期中葉。

2号住居跡（第4図・第10図・第11図）

（位置）1次調査区Eトレンチに所在。　（規模）長軸5.8m、短軸5.5mを測る。　（形状）楕円形。　（壁高）19.6cmを測る。　（重複）なし。　（ピット）3本検出。　（床面）広い範囲にトレンチャーが及んでいる。ほぼ平坦。　（炉）地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。　（遺物）覆土上層から下層にかけて散見される程度。　（時期）縄文時代前期前半。

3号住居跡　（第4図・第11図）

（位置）1次調査Cトレンチに所在。　（規模）長軸3.6m、短軸3.4mを測る。　（形状）不整円形。　（壁高）46.4cmを測る。　（重複）なし。　（ピット）3本検出。　（床面）一部にトレンチャーが及ぶ。ほぼ平坦。　（炉）地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。　（遺物）覆土上層から中層にかけて散見される程度。　（時期）縄文時代前期前半？

4号住居跡　（第3図・第11図・第12図）

黒褐色土中に遺構が構築されており、掘込みが確認できなかったため、規模・形状は不明。遺物が多く、出土範囲にもまとまりが伺えたため、調査区全体図に住居の推定範囲を示した。

（位置）第2次調査北部東側に所在。　（重複）なし。　（ピット）1～3号土坑が柱穴か。　（床面）不明。　（炉）なし。　（遺物）覆土中層？にまとまって出土。

（時期）縄文時代中期中葉。

5号住居跡（第5図・第12図～第17図）

（位置）2次調査区北部中央に所在。　（規模）長軸5.3m、短軸4.7mを測る。　（形状）不整円形。　（壁高）14.1cmを測る。　（重複）なし。　（ピット）大小様々なピット21本検出。ピット1～6・8・9・13が主柱穴と思われるが、規模や配置に斉一性がない。ピット4→3、13→9のように住居拡張等で柱の配置換えを行った可能性もある。いずれのピットも覆土に柱痕は見られず、ローム粒子が斑状に混入している。　（床面）ほぼ平坦。　（炉）石囲い炉が床面ほぼ中央に位置。炉石は一部抜かれている。炉内で焼土を検出。　（遺物）確認面から床面直上にかけて大量に出土。とくに下層に集中している。

（時期）縄文時代中期中葉。

6号住居跡（敷石住居跡）（第6図・第17図）

（位置）2次調査区中央部西側に所在。　（規模）敷石面は長軸2.2m、短軸2.1mを測る。狙り方は長軸2.5m、短軸2.3mを測る。　（形状）五角形に近似。　（重複）

堀り方に土坑３基が重複している。本遺構に伴う施設とは考えにくい。　(敷石面)　ほぼ全面に扁平な河原石を敷設している。敷設された石の総重量は約203 kgである。炉北側には敷石がないかわりに床面直下より５～10cm程度の砂利が検出された。砂利は炉跡側を短辺とする台形のような範囲内に敷き詰められており、台形の各辺は５～８cmの小石で縁取られていた。同サイズの小石は敷石部の外周からも検出された。また炉跡奥に敷石が立っている筒所がある。・丸石柱のように見えるが、石自体に人為的な加工痕がなく、規模・形状からも他の敷石と違いはないため、耕作もしくは重機による表土剥ぎの際に動かされたものと考えられる。　(周溝・ピット)　敷石を除いた後に、幅17～32cmの周溝を検出。ピットは周溝内から12本、それ以外で９本検出。いずれも小ピットであるが、敷石面の外周に位置することから、幅広の周溝とともに上屋構造に関連した遺構と考えられる。

(床面)　ほぼ平坦。　(炉)　方形石囲い炉が床面中央よりやや北へ奥まった場所に位置。焼土は検出されていない。　(遺物)　小型の深鉢形土器が１点炉跡西側で出土。正位の埋甕が１基、敷石の南端で出土。埋甕の周囲は小石で縁取られていた。　(時期)　縄文時代中期後半。

７号住居跡　(第６図・第17図・第18図)

(位置)　２次調査区北部西端に所在。　(規模)　西壁半分以上が調査区外のため不明。　(形状)　隅丸方形　(重複)　東壁で４～６号土坑と重複。南壁全体が溝状の遺構と撹乱？により壊されている。　(ピット)　浅い小ピット多数検出。柱穴配置は不明。　(床面)　ほぼ平坦。
(炉)　なし。(遺物)　住居中央の覆土下層にまとまって出土。　(時期)　縄文時代前期前半。

８号住居跡　(第７図・第19図)

(位置)　２次調査区南部西側に所在。　(規模)　南壁側半分以上が撹乱等により壊されており不明。　(形状)　不整円形　(重複)　７号土坑・８号土坑。　(ピット)　浅い小ピット多数検出。柱穴配置は不明。　(床面)　ほぼ平坦。　(炉)　方形石囲い炉が床面ほぼ中央に位置。
(遺物)　住居中央の覆土中層から下層にまとまって出土。
(時期)　縄文時代中期後半。

９・10号住居跡　(第７図・第19図・第20図)

(位置)　２次調査区北部東側に所在。　(規模)　不明
(形状)　不整円形　(重複)　遺構確認面の状況及びサブトレンチ内の断面観察から９号住居跡の方が新しい遺構と判断されている。10号住居跡は南壁で９号土坑と重複。

(ピット)　柱穴配置不明。２軒分としてはやや多いか。
(床面)　広い範囲にトレンチャーが及んでいる。ほぼ平坦。　(炉)　地床炉状の遺構が床面ほぼ中央に位置。
(遺物)　覆土下層に散見される程度。正位の埋甕が１基９号住の出入り口と思われる位置で出土。　(時期)　縄文時代中期後半。

(2)　土坑　(第８図)

２次調査区の中央より北側、とくに９・10号住居跡の周辺で多数の土坑が検出された。規模・形状は様々であり、小規模な土坑は柱穴なのか模穴なのか判別がつかない。そのため本報告では住居跡に重複している土坑のみ図示し、他は以下の一覧表にまとめた。遺物は縄文時代前期から中期の土器片が出土している。しかし、いずれも小破片であり、土坑の時期を積極的に決定づける資料とは言い難いため図示はしなかった。

第１表　土坑一覧表

土坑番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土した土器
１号土坑	111	80	61.2	前期～中期 ３点
２号土坑	90	84	47.2	前期～中期 12点
３号土坑	84	50	36.4	前期～中期 ２点
４号土坑	114	96	23.5	なし
５号土坑	88	84	21.5	なし
６号土坑	94	88	26.4	なし
７号土坑	232	128	29.8	なし
８号土坑	110	62	34.1	なし
９号土坑	124	114	39.3	前期～中期 ２点
10号土坑	102	64	23	なし
11号土坑	41	30	7.8	なし
12号土坑	72	37	19.4	なし
13号土坑	54	39	31.2	中期 １点
14号土坑	31	15	29.7	なし
15号土坑	21	18	7.8	なし
16号土坑	39	21	8.8	前期～中期 ２点
17号土坑	8	7	8.9	前期 １点
18号土坑	12	11	22.7	なし
19号土坑	51	29	30.6	前期 １点
20号土坑	130	92	26.7	前期～中期 ７点
21号土坑	27	22	8.9	なし
22号土坑	12	11	9.2	なし
23号土坑	20	11	8.7	なし
24号土坑	22	19	9.1	なし
25号土坑	76	42	8.1	前期～中期 ３点
26号土坑	15	14	20.7	なし
27号土坑	34	31	20.7	なし
28号土坑	30	18	19.2	なし
29号土坑	61	50	7	前期 １点
30号土坑	67	54	39.1	前期～中期 ２点
31号土坑	70	32	19.5	中期 ２点
32号土坑	115	92	19.1	前期～中期 ６点
33号土坑	66	62	16.3	なし
34号土坑	53	49	46.7	なし
35号土坑	25	20	16.5	なし
36号土坑	38	36	41.7	なし
37号土坑	30	28	7.8	なし
38号土坑	40	30	31.1	なし
39号土坑	28	19	7.8	なし
40号土坑	30	28	7.8	なし
41号土坑	30	28	7.8	なし
42号土坑	30	28	7.8	なし
43号土坑	30	28	7.8	なし
44号土坑	30	28	7.8	なし

(※土器の詳細な時期は第５表参照)

(3) 遺構外の出土遺物　(第20図・第21図)

遺構外からは縄文時代前期前半・中期中葉を中心に遺物が出土している。ただし、調査地の上層は耕作等によりかなり動かされているため、本来は住居跡や土坑の覆土上層部に存在した遺物も相当量含んでいると考えられる。特殊な遺物として第20図3の台形土器や第22図28の小型石匙が挙げられる。

第4章　調査の成果と課題

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡が10軒発見され、うち1軒は敲石住居跡であった。1次で検出された住居跡は攪乱が著しく、遺物の遺存状況も良くなかったが、2次の住居跡からは器形復元の可能な土器が比較的まとまって出土した。各住居の時間的な繋がりこそ断続的であるが、当該地における縄文時代前期前半から中期後半の集落の広がりやその社会構造を知る上で絶好の資料を提示できたと思う。ここではその成果と課題の一部を取り上げ、今後の研究の一助としたい。

(1) 縄文時代前期前半の土器について

前期前半の土器は1,196点出土した。武川町内でも該期の土器がこれほどまとまって発見されたのは初である。しかし、ほとんどが10～20ｇの小破片であるのに加え無文の繊維土器が大半であったため、型式学的な分析は非常に困難であった。無文という特徴だけとれば中越式土器のと捉えることもできるが、基本的に中越式土器の胎土には繊維を含まない。中越式が本地域で在地化して繊維が混ぜられたとも考えられるが、他系統の土器が搬入している可能性が十分あり検討を要するところである。神之木式土器に比定される地縄文の土器は全体的に少なく、外来系の関山式土器は僅かに混じる程度であった。

前期前半は多系統の土器が同一遺跡・遺構内で出土することが知られている。該期の人や物、情報の流れを解明する基礎的なデータとして遺跡毎に各土器系統の混在比率を示す必要を感じた。しかし、山梨県内において該期の資料は極端に少なく、個別の土器にあたると型式分類に苦しむことが多い。今後の類例増加に期待したい。

(2) 敲石住居跡について

本調査で発見された敲石住居跡は、当初竪穴が伴わない非常に小規模な遺構であることから、用途は住居ではなく集落内のモニュメント的な構造物ではという認識もあった。しかし、堀り方より検出された周溝やピットの状況から上屋構造も想定の範囲であり、あえて否住居説に立脚して本例を捉える必要はないと考える。それより本例の性格を考える上で重要なのは集落内施設の一つか、単独で存在した施設かという検討である。今回の調査で同年代の住居が2軒検出されたが、いずれの住居も廃絶の時期がほぼ同時であるにすぎないと思われ、使用時の同時性を積極的に裏付けるには至らなかった。

また本例は山梨県内でも敲石住居の出現期の一つとして注目されてきた。敲石住居の出現に関しては山本1994・佐野2003・櫛原2004などすでに多くの研究がある。山本氏は縄文時代中期後半、中部高地で発達した住居奥壁部敲石（石柱・石壇）と関東地方で発生した柄鏡形住居とが一体化して柄鏡形敲石住居が出現すると考察した。しかし、佐野氏は縄文時代中期前葉から来葉の住居内配石のあり方についてその変遷を示し、石柱・石壇が敲石住居の直系の祖形と考えるのは難しいと指摘した。また櫛原氏は中部高地では柄のない敲石住居が柄鏡形住居成立以前より存在することを指摘し、敲石住居の発生は中部高地側の流れの中で考えたいという。

石柱・石壇をもつ住居跡は武川町内の真原Ａ遺跡でも1軒発見されている。曾利Ⅱ～Ⅲ式期の住居で石柱・石壇は炉跡の奥から検出され、石壇に伴い顔面付釣手土器が出土した。このような遺構と本例が果たして同じ系譜の中で語れるものだろうか。現状では遺構の規模・形態や柱穴配置の相違だけをとっても住居型式に突然変異が起きたとしか思えない。今後両者の比較検討を進め、敲石住居跡の年代的・地域的あり方に迫りたいと思う。

《参考文献》

石井寛　1998　「柄鏡形住居址・敲石住居址の成立と展開に関する一考察」『縄文時代９』縄文時代文化研究会

今福利恵　2001　「土器型式による時期区分」『山梨県考古学協会誌』第12号　山梨県考古学協会

櫛原功一　2004　「敲石住居の発生－柄のない敲石住居の存在－」『山梨考古学論集Ⅴ』　山梨県考古学協会

佐野隆　2003　「縄文時代中期の住居内配石について－敲石住居発生以前の住居内祭祀施設の様相－」『山梨県考古学協会誌』第14号　山梨県考古学協会

坂口広太　2003　「武川村真原Ａ遺跡12号住居跡の配石遺構について」　『八ヶ岳考古平成15年度年報』　北巨摩市町村文化財担当者会

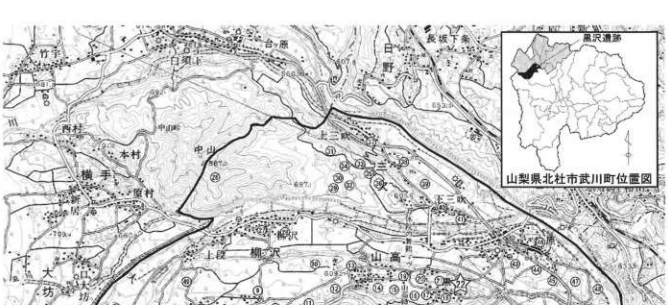
野崎進　2001　「縄文時代前期の土器について」『山梨県考古学協会誌』第12号　山梨県考古学協会

白州町教育委員会　1993『上北田遺跡』

山梨県　1999　『山梨県史』資料編２原始・古代２考古（遺構・遺物）山梨日日新聞社

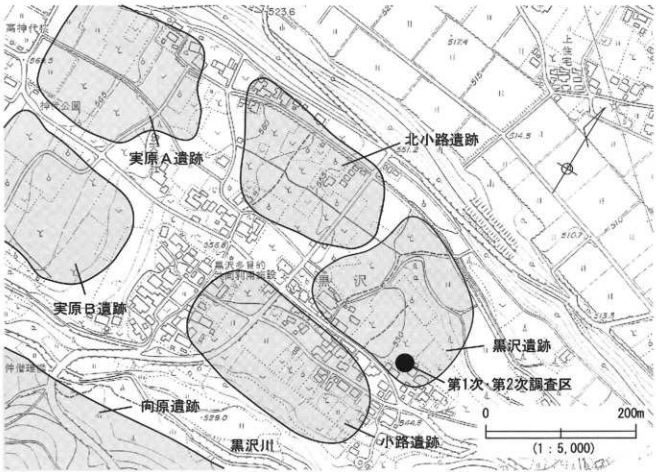
山本暉久　2002　『敲石住居の研究』　六一書房

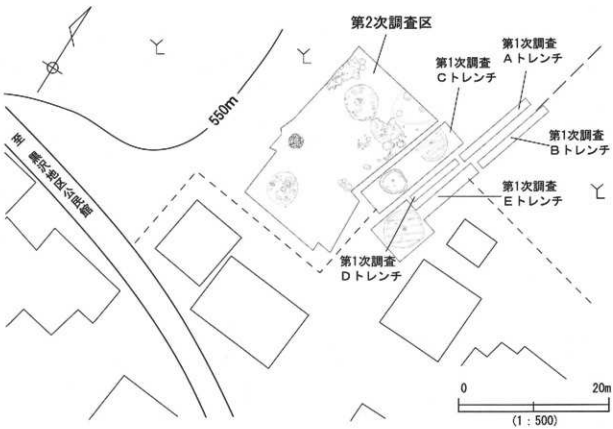
山本暉久　2004「柄鏡形（敲石）住居址をめぐる最近の研究動向について」『縄文時代15』縄文時代文化研究会



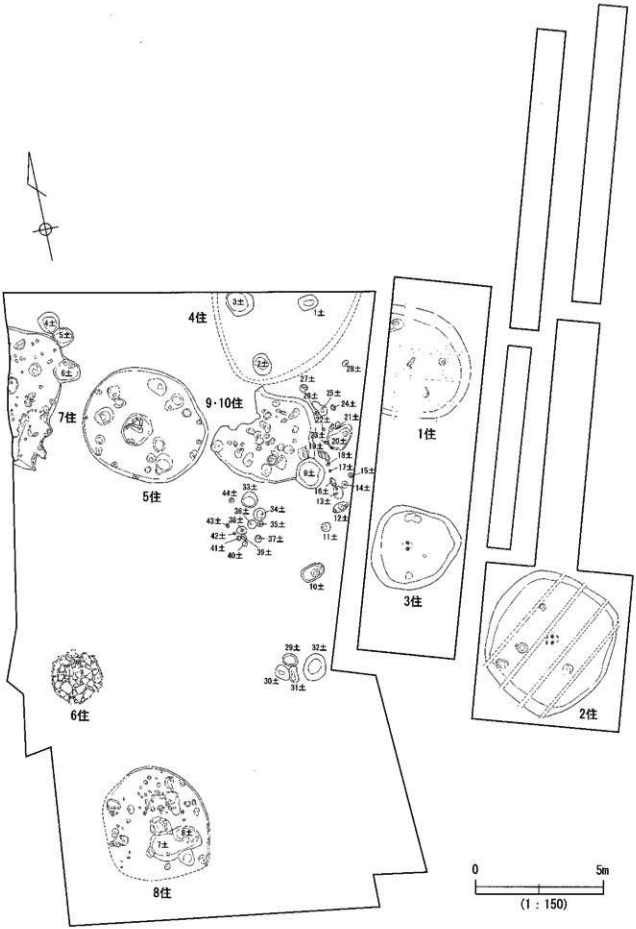
第１図　北杜市武川町遺跡分布図

1　真原Ａ遺跡　集落址（縄文中期）
2　真原Ｂ遺跡　散布地（縄文）
3　真原Ｃ遺跡　散布地（縄文・平安）
4　真原Ｄ遺跡　散布地（縄文・弥生）
5　鴨尾遺跡　散布地（縄文）
6　城山遺跡　散布地（平安）
7　星山古城遺跡　城館址（戦国）
8　荻坂Ｂ遺跡　散布地（縄文）
9　下原Ａ遺跡　散布地（縄文）
10　下原Ｂ遺跡　散布地（縄文・弥生・中世）
11　神林遺跡　散布地（縄文・中世）
12　西ノ宮遺跡　散布地（縄文・中世）
13　寺久保遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
14　大小路遺跡　散布地（縄文）
15　東原Ａ遺跡　散布地（縄文・中世）
16　東原Ｂ遺跡　集落址（縄文中期）
17　実原Ｂ遺跡　散布地（縄文草創期・中期・奈良・平安・中世）
18　小路遺跡　散布地（中世・近世）
19　山高遺跡　散布地・館跡（縄文中期・中世・近世）
20　実原Ａ遺跡　集落址（縄文前期・中期）
21　北小路遺跡　散布地（縄文・中世）
22　黒沢遺跡　集落址（縄文前期・中期・中世）
23　大持原Ａ遺跡　散布地（縄文）
24　大持原Ｂ遺跡　散布地（平安・中世）
25　上原遺跡　散布地（縄文・平安・中世・近世）
26　中山砦　城館址（戦国）
27　中村遺跡　散布地（中世）
28　下町遺跡　散布地（中世）
29　西久保Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
30　坂上Ａ遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
31　坂上Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
32　西久保Ｂ遺跡　散布地（奈良・平安・中世・近世）
33　山田Ａ遺跡　窯跡（近代）
34　山田Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
35　山田Ｃ遺跡　散布地（中世・近世）
36　新左エ門原遺跡　散布地（弥生・中世・近世）
37　富貴野遺跡　散布地（縄文）
38　御陣遺跡　集落址（縄文・平安・近世）
39　宮間田遺跡　集落址（平安）
40　尾崎Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
41　尾崎Ｂ遺跡　散布地（平安）
42　堂仏寺遺跡　散布地（中世・近世）
43　西原Ａ遺跡　散布地（中世・近世）
44　西原Ｂ遺跡　散布地（中世・近世）
45　北原遺跡　散布地（縄文）
46　下田中遺跡　散布地（中世・近世）
47　牧原東原遺跡　散布地（縄文・中世・近世）
48　ママ下遺跡　散布地（中世・近世）
49　柿沢上原遺跡　散布地（縄文・平安）
50　三貫目遺跡　散布地（縄文・中世）
73　向原遺跡　集落址（縄文前・中・後期・弥生・平安・中世）

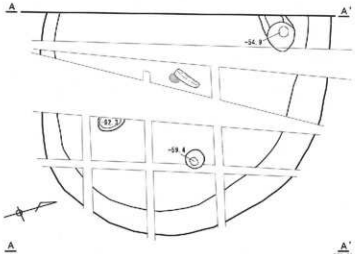




第２図　黒沢遺跡周辺図（上）・調査区位置図（下）



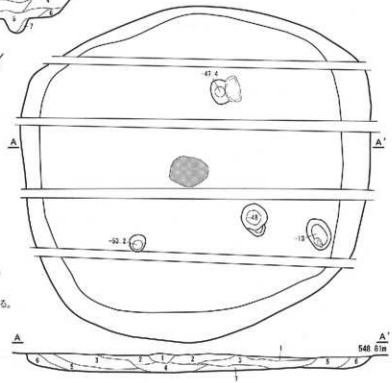
第３図　調査区全体図



1号住居跡

住居覆土 セクション

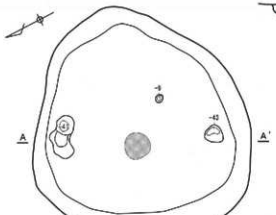
1層 Hue10YR2/1黒色土。耕作土。
2層 Hue10YR3/1黒褐色土。ローム粒子少量混入。
3層 Hue10YR3/3暗褐色土。ローム粒子少量混入。
4層 Hue10YR3/2黒褐色土。
5層 Hue10YR3/2黒褐色土。焼土・炭化物粒子混入。
6層 Hue10YR5/6黄褐色土にHue10YR4/4褐色土が混ざる。
7層 Hue10YR5/6黄褐色土にHue10YR3/2黒褐色土が混ざる。



2号住居跡

住居覆土 セクション

1層 Hue10YR2/1黒色土。耕作土。
2層 Hue10YR2/3黒褐色土。ローム粒子少量混入。
3層 Hue10YR3/2黒褐色土。3層よりローム粒子やや多い。
4層 Hue10YR3/2黒褐色土。焼土・炭化物粒子混入。
5層 Hue10YR3/3暗褐色土。
6層 Hue10YR5/6黄褐色土にHue10YR4/4褐色土が混ざる。
7層 Hue10YR4/4褐色土。ロームブロック少量混入。



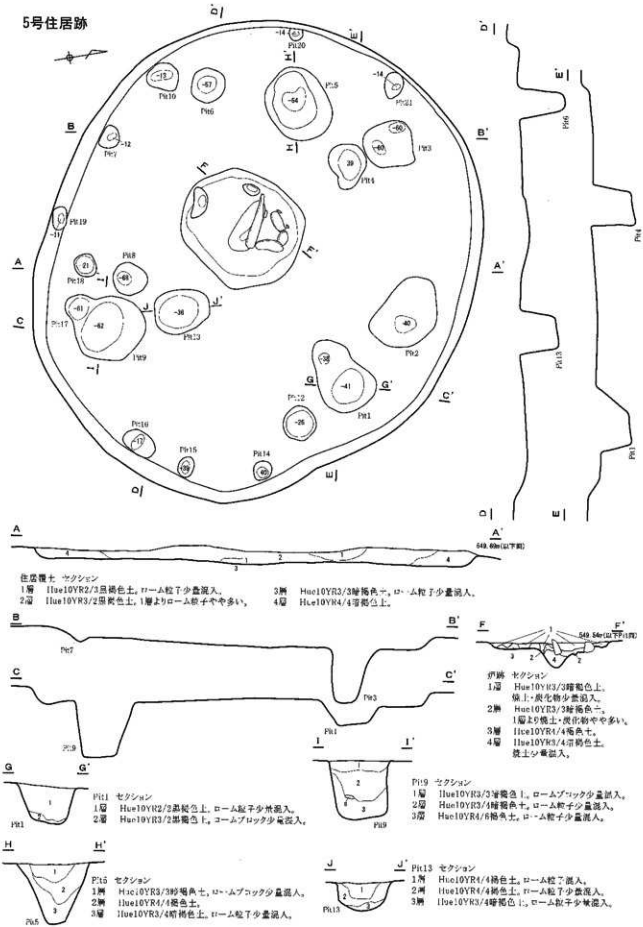
3号住居跡

住居覆土 セクション

1層 Hue10YR2/1黒色土。耕作土。
2層 Hue10YR3/2黒褐色土。ローム粒子少量混入。
3層 Hue10YR3/3暗褐色土。ローム粒子少量混入。
4層 Hue10YR3/3暗褐色土。3層よりローム粒子やや多い。
5層 Hue10YR3/2黒褐色土。ローム粒子少量混入。
6層 Hue10YR3/4暗褐色土。4層よりローム粒子やや多い。
7層 Hue10YR4/4褐色土。
8層 Hue10YR3/4暗褐色土。6層よりローム粒子やや多い。
9層 Hue10YR4/6褐色土。

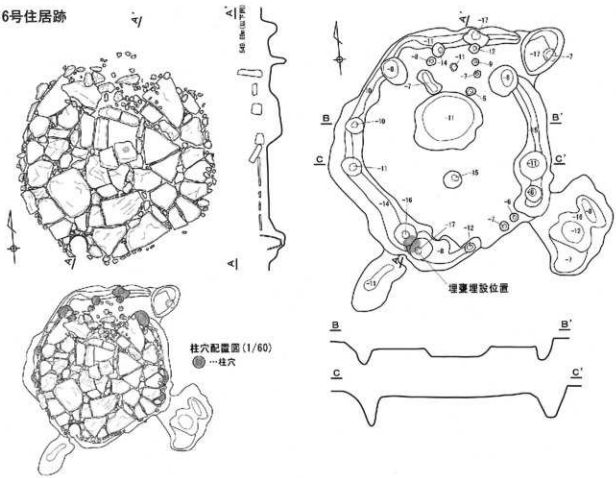
…焼土範囲

第４図　１号住居跡・２号住居跡・３号住居跡（1/60）

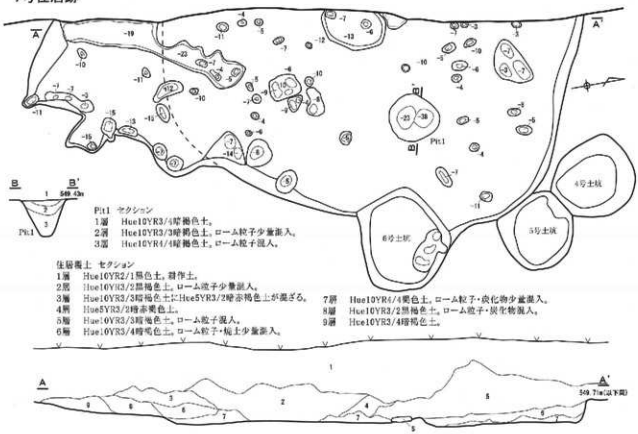


第5図　5号住居跡 (1/40)

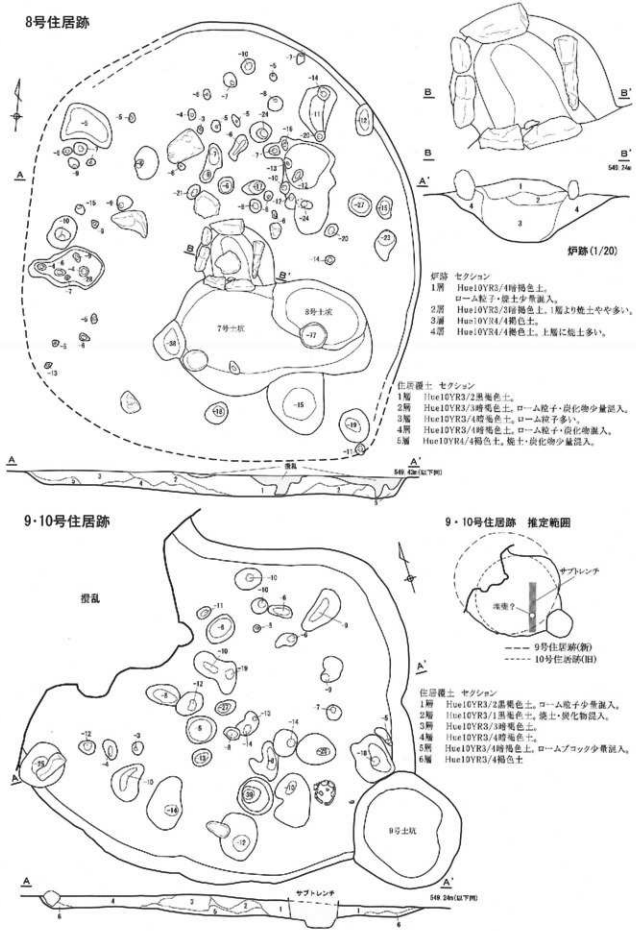
6号住居跡



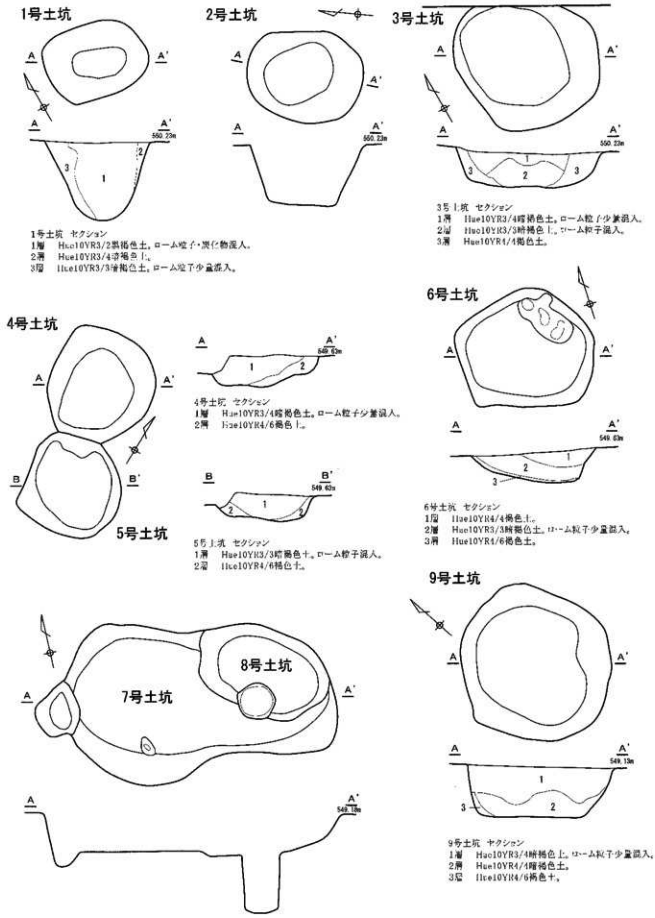
7号住居跡



第6図　6号住居跡・7号住居跡 (1/40)

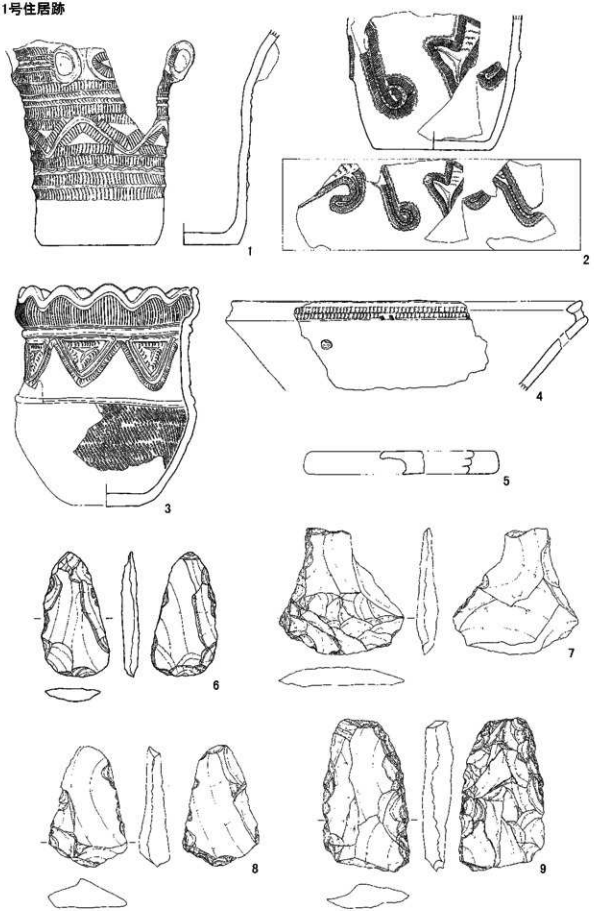


第7図　8号住居跡・9・10号住居跡 (1/40)



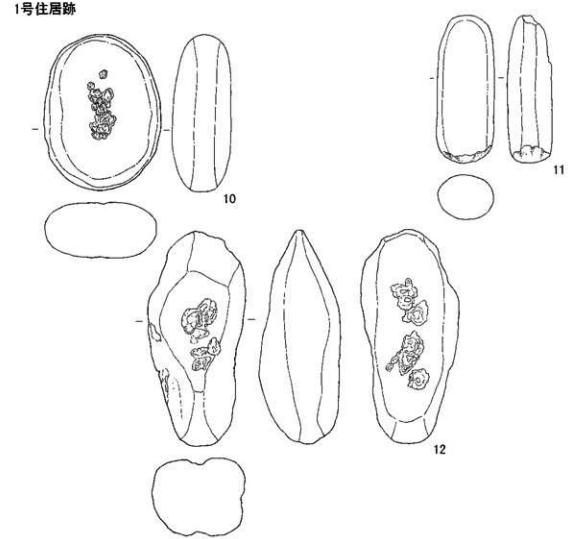
第8図　1～9号土坑 (1/30)

1号住居跡

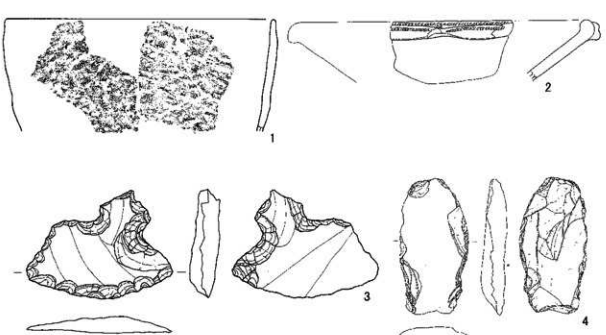


第９図　１号住居跡出土遺物（1/4、6~9 1/3）

1号住居跡

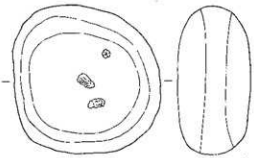


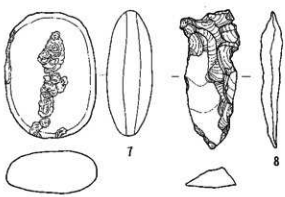
2号住居跡



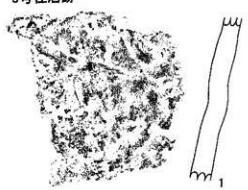
第10図　1号住居跡・2号住居跡出土遺物（1住：1/3　2住：1/4、3 1/1、4 1/3）

2号住居跡

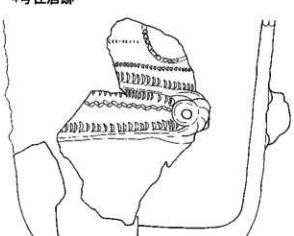


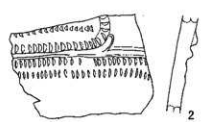


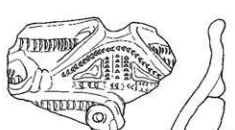
3号住居跡

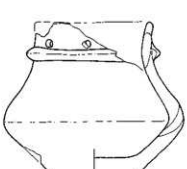


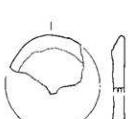
4号住居跡

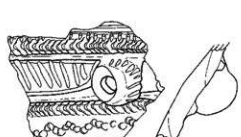






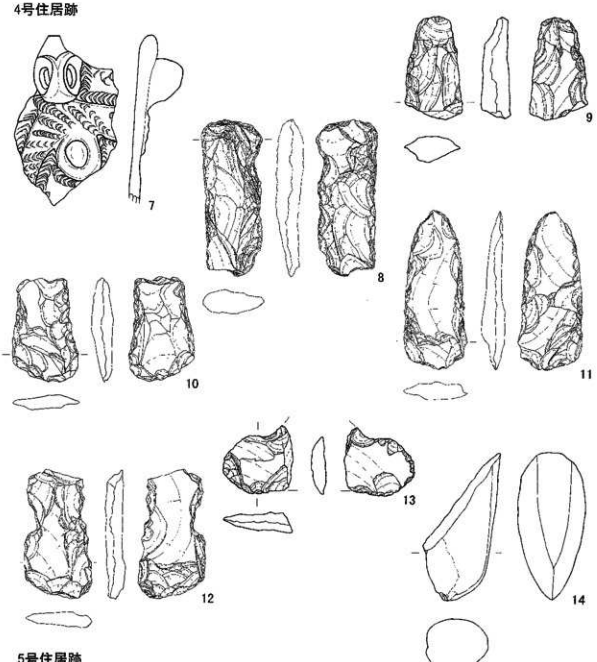




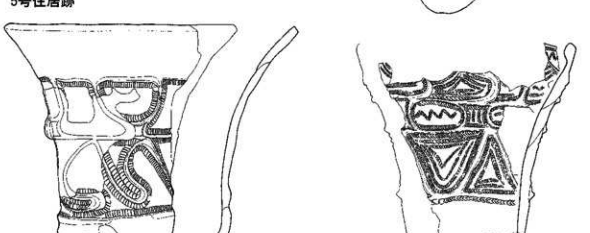


第11図　2号住居跡・3号住居跡・4号住居跡出土遺物
（2住：1/3、5 1/2、8 1/1　3住：1/2　4住：1/2）

4号住居跡

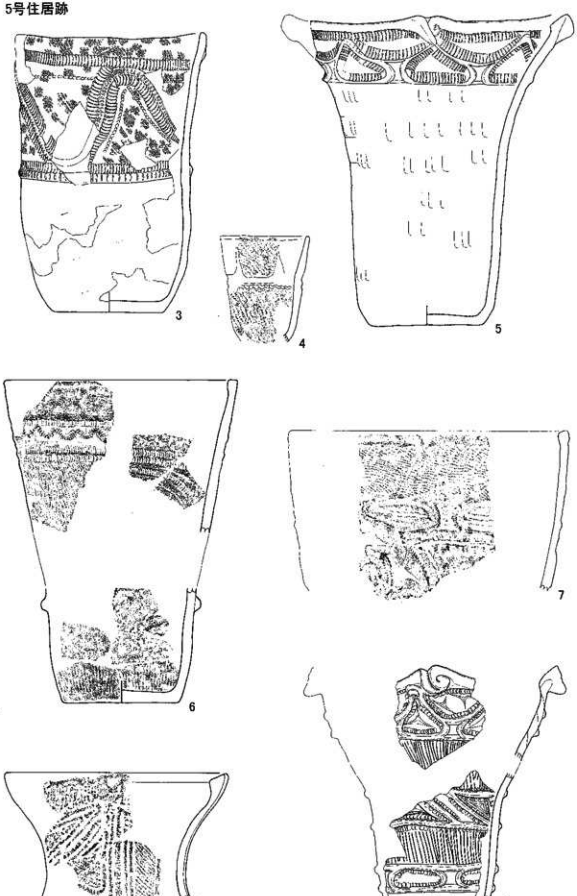


5号住居跡

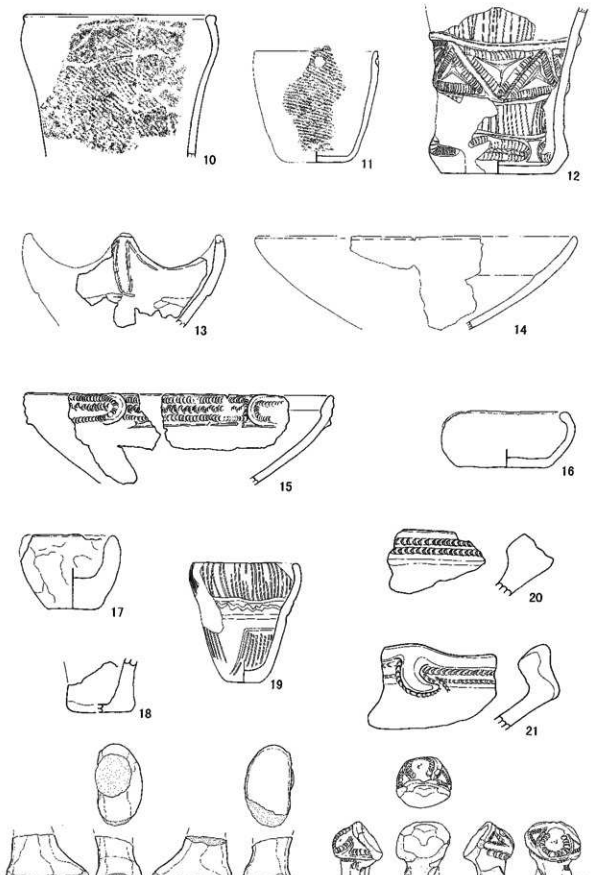


第12図　4号住居跡・5号住居跡出土遺物（4住：1/2、8・10～12 1/3　5住：1/4）

5号住居跡

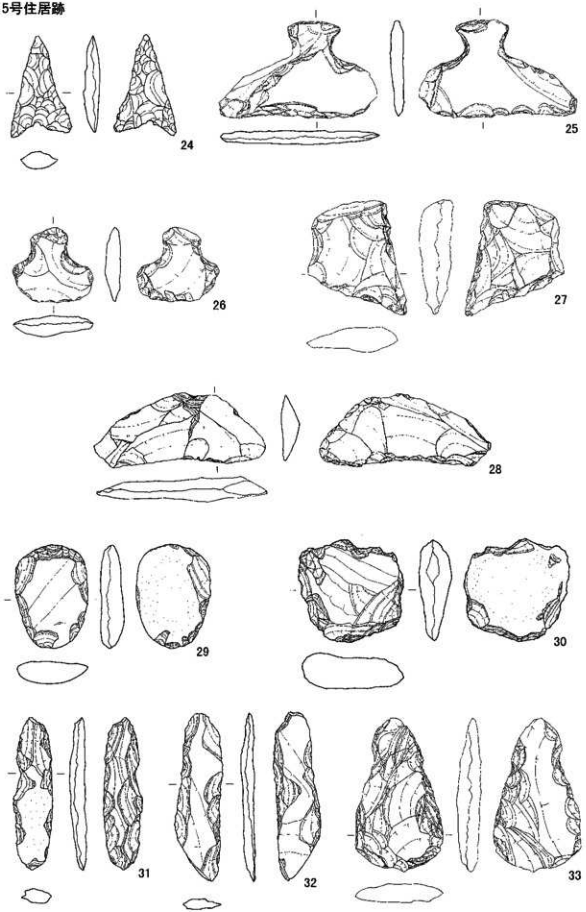


第13図　5号住居跡出土遺物（1/4）



第14図　5号住居跡出土遺物（1/4、17～21 1/2、22・23 1/3）

5号住居跡

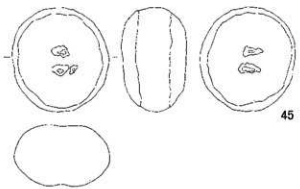


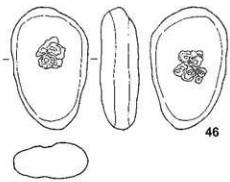
第15図　5号住居跡出土遺物（1/3、24 1/1、31･32 1/2）

5号住居跡

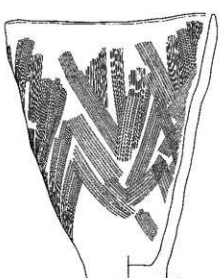
第16図　5号住居跡出土遺物 (1/3、42 1/2)

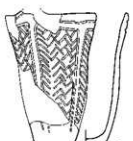
5号住居跡

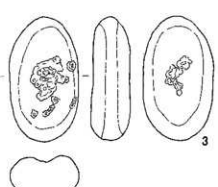




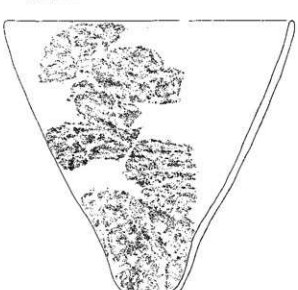
6号住居跡

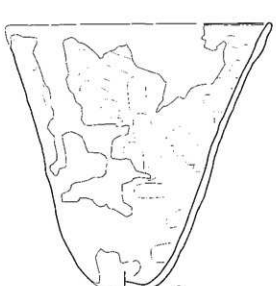




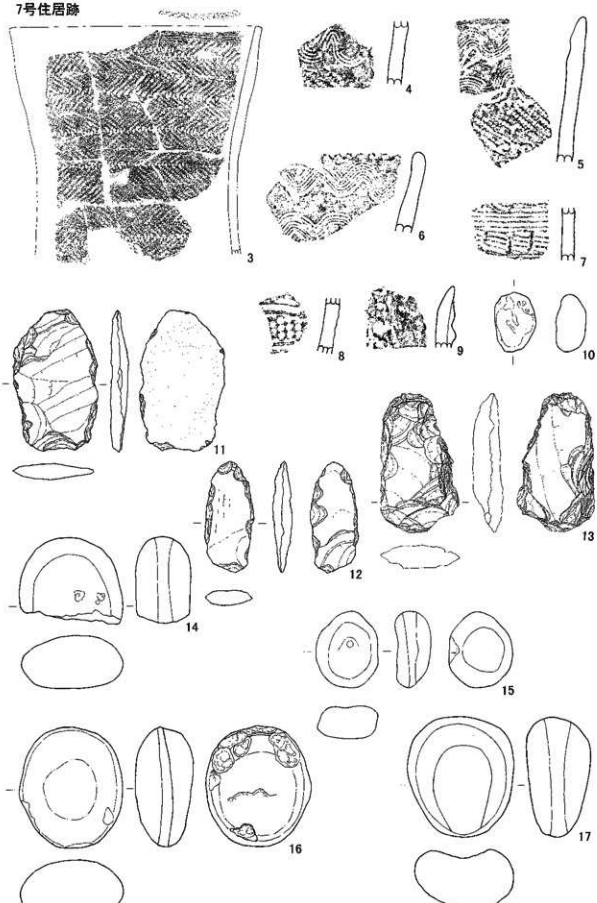


7号住居跡



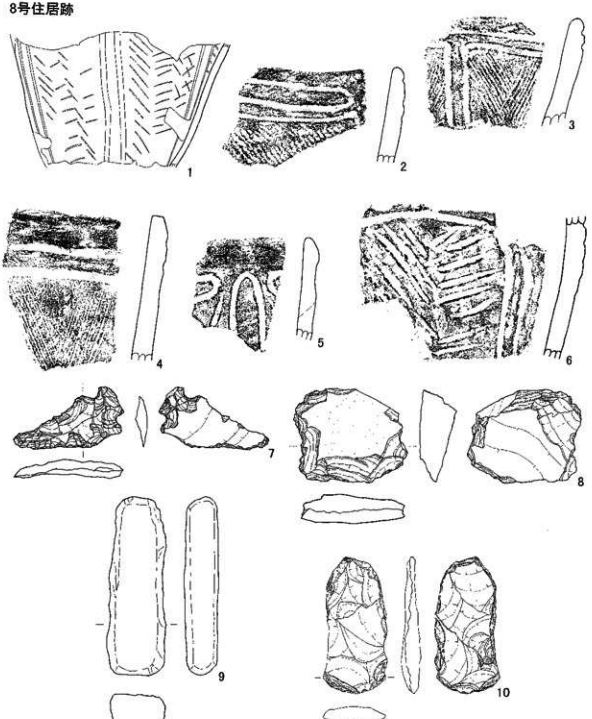


第17図　5号住居跡・6号住居跡・7号住居跡出土遺物
（5住：1/3、6住：1/4、3 1/3　7住：1/4）



第18図　7号住居跡出土遺物（1/2、3 1/4、11・13・14・16・17 1/3）

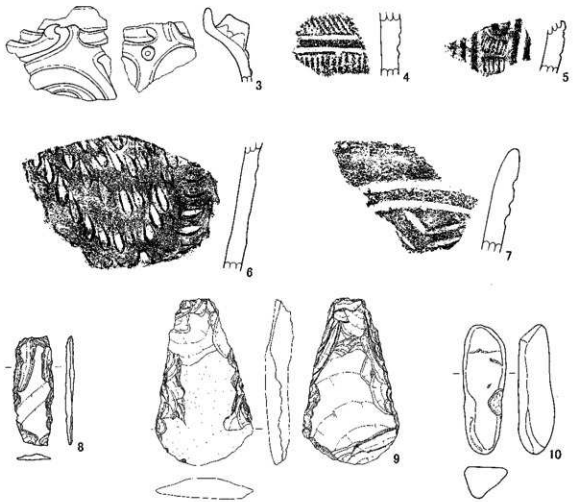
8号住居跡



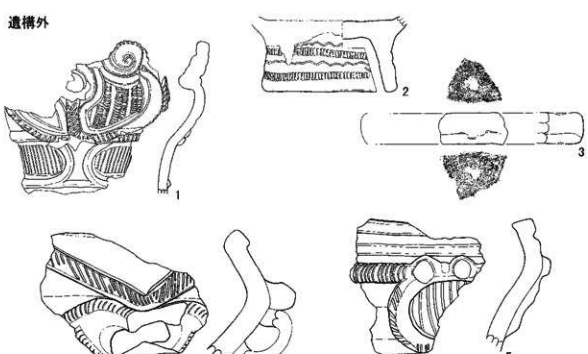
9·10号住居跡

第19図　8号住居跡・9·10号住居跡出土遺物（8住：1/2、1 1/4、8・10 1/3　9住：1/4）

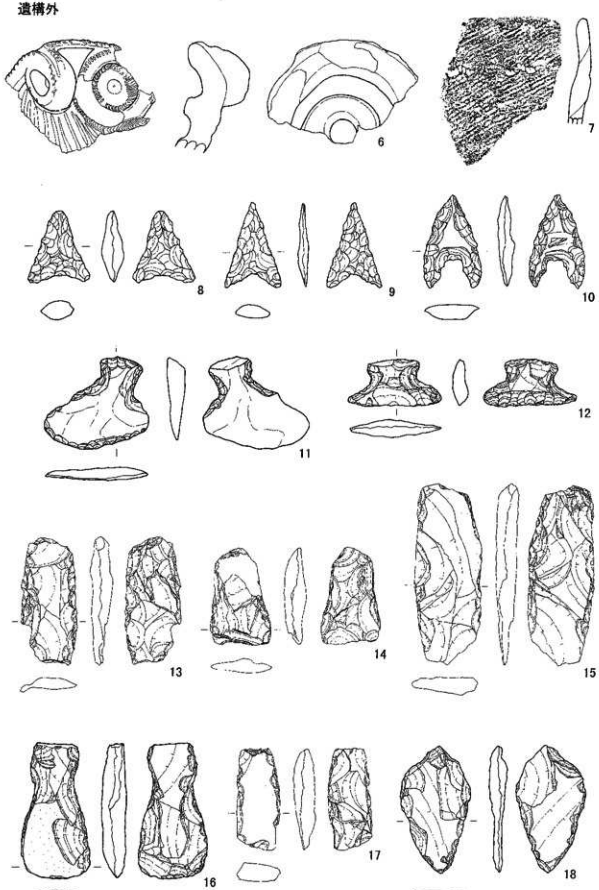
9・10号住居跡



遺構外

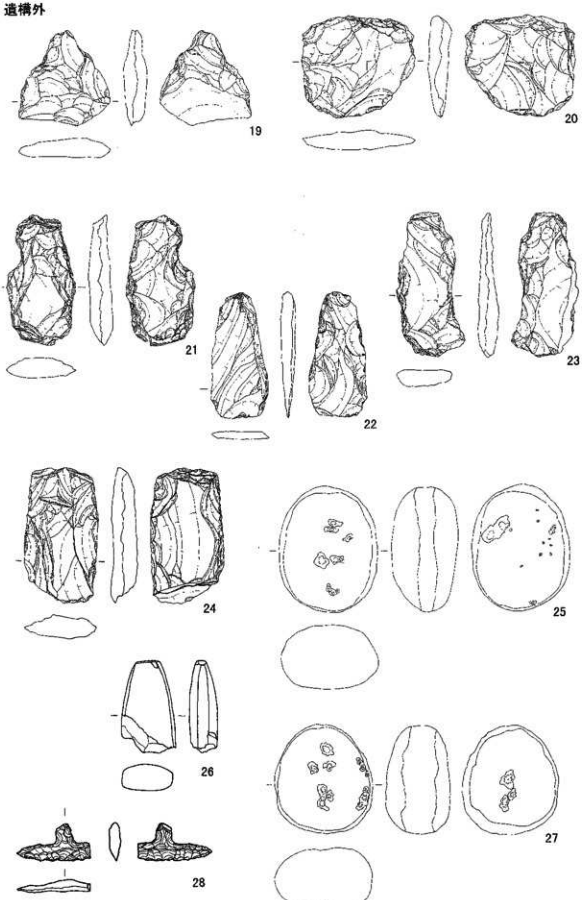


第20図　9・10号住居跡・遺構外出土遺物（9・10住：1/2、8～10 1/3　遺構外：1/4、4・5 1/2）



第21図　遺構外出土遺物 (1/2、8～10 1/1、13～17 1/3)

遺構外



第22図　遺構外出土遺物（1/3、28 1/1）

第2表　土器観察表　　※（　）内数値は推定値　　※胎土略号…繊…繊維　黒…黒色粒子　白…白色粒子　石…石英　赤…赤色粒子　雲…雲母

図版	番号	出土地点	標準底面レベルとの比高差(cm)	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整	色調(外面)	胎土	残存(%)	重量(g)
第9図	1	1号住	8~17.9	縄(中中)	深鉢	—	12.0	—	角押文	5YR6/6橙	やや粗（白・黒・石）	60	1,072
第9図	2	1号住	10~17.5	縄(中中)	深鉢	—	12.0	—	抽象文・角押文・爪形文	7.5YR5/6明褐	やや粗（白・赤）	25	582
第9図	3	1号住	1~15.5	縄(中中)	深鉢	19.4	—	23.5	隆刻文・爪形文・縄文	10YR5/6黄褐	やや粗（白・黒）	65	923
第9図	4	1号住	5	縄(中中)	浅鉢	(37.6)			角押文・穿孔	7.5YR6/6橙	やや粗（白・石・雲）	15	385
第10図	1	2号住	1.6~11.1	縄(前前)	深鉢	(29.5)			無文・ナデ	10YR4/4褐	やや粗（繊・白・雲）	25	553
第10図	2	2号住	10.9	縄(中中)	浅鉢	(34.0)	—	—	角押文	7.5YR5/6明褐	密（白・赤・雲）	10	252
第11図	1	3号住	11.2	縄(前前)	深鉢	—	—	—	無文・ナデ	10YR5/4にぶい黄褐	やや粗（白・雲）	—	82
第11図	1	4号住	—	縄(中中)	深鉢	—	(11.0)	—	同一個体？角押文・隆刻文	7.5YR5/6明褐	やや粗（白・雲）		631
第11図	2	4号住	—	縄(中中)	深鉢	—	—	—					
第11図	3	4号住	—	縄(中中)	深鉢								
第11図	4	4号住		縄(中中)	有孔鍔付	(6.5)	4.2	8.7	小型・有孔	5YR5/6明赤褐	密（白・黒・雲）	40	69
第12図	6	4号住		縄(中中)	深鉢	—	—	—	角押文・沈線	5YR5/6明赤褐	やや粗（白・雲）		98
第12図	7	4号住	—	縄(中中)	深鉢	—	—	—	角押文	7.5YR5/6明褐	やや粗（白・雲）	—	53
第12図	1	5号住	6.5~30.3	縄(中中)	深鉢	24.5	(10.2)	(24.5)	角押文・内外面磨き	5YR4/4にぶい赤褐	細密（白・黒）	40	524
第12図	2	5号住	3.1~23.5	縄(中中)	深鉢	—	—	—	角押文・内面磨き	10YR4/2灰黄褐	細密（白・黒・雲）	30	406
第13図	3	5号住	18.5~32.1	縄(中中)	深鉢	(20.5)	11.6	30.0	角押文・縄文・内面磨き	7.5YR5/4にぶい褐	細密（白・黒・雲）	65	1,179
第13図	4	5号住	9.4~19.2	縄(中中)	小型深鉢	(9.7)	—	—	沈線・縄文	5YR4/4にぶい赤褐	やや粗（白）	60	125
第13図	5	5号住	4.1~19.5	縄(中中)	深鉢	(31.2)	12.2	34.0	角押文・指頭痕・二次焼成痕	10YR3/3暗褐	粗（白・黒）	95	2,990
第13図	6	5号住	13.1~19.6	縄(中中)	深鉢	(25.2)	(12.5)	(33.2)	角押文・縄文	7.5YR5/6明褐	細密（白・黒・赤・雲）	20	1,117
第13図	7	5号住	9~14.5	縄(中中)	深鉢	(30.3)	—	—	角押文・沈線・縄文・内面磨き	7.5YR5/6明褐	細密（白・黒・雲）	10	329
第13図	8	5号住	13.1~23.7	縄(中中)	深鉢	(24.0)			沈線	10YR4/3にぶい黄褐	密（白・黒）	10	191
第13図	9	5号住	8.1~29.4	縄(中中)	深鉢	(29.0)	—	—	角押文・隆刻文・沈線	7.5YR4/3褐	細密（白・黒・雲）	40	506
第14図	10	5号住	15.1~22.3	縄(中中)	深鉢	(21.0)	—	—	沈線・縄文	10YR5/6黄褐	粗（白・黒・雲）	40	392
第14図	11	5号住	9.8~23.2	縄(中中)	小型深鉢	(13.3)	6.0	12.2	刺突文・縄文	7.5YR4/3褐	やや粗（白・赤）	15	78
第14図	12	5号住	29.6~36.1	縄(中中)	深鉢	—	(12.0)	—	角押文・隆刻文・沈線	7.5YR5/6明褐	密（白・黒・赤・雲）	30	695
第14図	13	5号住	16.1~26.1	縄(中中)	深鉢？	(21.5)	—	—	沈線・内外面磨き	7.5YR5/4にぶい褐	細密（白・雲）		144
第14図	14	5号住	6.3~21.6	縄(中中)	浅鉢	(34.7)	—	—	縄文・内外面磨き	5YR4/6赤褐	密（白・雲）	10	185
第14図	15	5号住	3.1~25.2	縄(中中)	浅鉢	(33.6)			角押文	7.5YR6/6橙	やや粗（白・赤・雲）	10	520
第14図	16	5号住	11.2	縄(中中)	筒形土器	(13.0)	9.2	6.2	縄文・内外面磨き	5YR5/6明赤褐	密（白・赤・黒・雲）	65	310
第14図	17	5号住	15.5	縄(中中)	ミニチュア	(5.0)	2.5	4.0	手捏ね成形	7.5YR5/4にぶい褐	密（白・赤・雲）	45	47
第14図	18	5号住	7.4	縄(中中)	ミニチュア	—	—	—	手捏ね成形	10YR6/4にぶい黄橙	細密（白・赤）		15
第14図	19	5号住	2.7	縄(中中)	ミニチュア	(6.0)	2.5	6.8	沈線	7.5YR4/2灰褐	密（白・黒・雲）	65	35
第14図	20	5号住	4.1	縄(中中)	浅鉢	—	—	—	角押文	10YR6/4にぶい黄橙	密（白・黒・雲）	—	31
第14図	21	5号住	4.3	縄(中中)	浅鉢	—	—	—	角押文	10YR4/2灰黄褐	粗（白・赤・雲）	—	49
第17図	1	6号住	床直	縄(中後)	深鉢	21.9	7.6	29.2	条線（一部綾杉状）	7.5YR6/6橙	やや粗（白・黒・石・雲）	85	2,590
第17図	2	6号住	1.1~8.8	縄(中後)	小形深鉢	10.0	4.0	14.3	ハの字文・沈線	10YR5/4にぶい黄褐	やや粗（白・黒・石・雲）	60	169
第17図	1	7号住	12.3~34.2	縄(前前)	深鉢	(31.3)	—	(31.2)	無文・ナデ	10YR4/2灰黄褐	粗（繊・白・黒・石）	30	765
第17図	2	7号住	20.2~30.7	縄(前前)	深鉢	(29.1)		29.7	無文・ナデ	10YR5/4にぶい黄褐	やや粗（繊・白・黒・石）	50	1,309
第18図	3	7号住	19.5~23.5	縄(前前)	深鉢	(27.0)	—	—	沈線・羽状縄文	5YR4/3にぶい赤褐	密（白・黒・赤・石）	20	665
第18図	4	7号住	27.5	縄(前前)	深鉢	—	—		同一個体？コンパス文・縄文・口唇部に刻み目	7.5YR5/6明褐	密（白・赤・黒）	—	74
第18図	5	7号住	26.4	縄(前前)	深鉢			—					
第18図	6	7号住	30.5	縄(前前)	深鉢	—	—	—					
第19図	7	7号住	25.4	縄(前前)	深鉢	—	—	—	条線	7.5YR5/6明褐	密（白・黒）	—	14
第19図	8	7号住	17.5	縄(前前)	深鉢	—		—	沈線・刺突文	7.5YR5/6明褐	密（白・石）	—	8
第19図	9	7号住	18.3	縄(前前)	深鉢	—	—		細い縦隆線に刻み目	10YR5/3にぶい黄褐	やや粗（白・黒・石・雲）		10
第19図	1	8号住	15.4~23.5	縄(中後)	深鉢		—	—	まばらなハの字文・沈線	7.5YR4/3褐	粗（白・黒・雲）	20	715
第19図	2	8号住	21.2	縄(中後)	深鉢	—	—		沈線・縄文	10YR6/4にぶい黄橙	密（白・黒・雲）		46
第19図	3	8号住	9.1	縄(中後)	深鉢			—	綾杉状条線	10YR3/3暗褐	密（白・黒・雲）	—	54
第19図	4	8号住	27.2	縄(中後)	深鉢	—	—	—	綾杉状条線	10YR3/3暗褐	密（白・黒・雲）	—	76
第19図	5	8号住	7.5	縄(中後)	深鉢	—	—		沈線	10YR4/4褐	密（白・黒・雲）		31
第19図	6	8号住	26.5	縄(中後)	深鉢	—		—	ハの字文・沈線	10YR5/4にぶい黄褐	密（白・黒・雲）	—	95
第19図	1	9・10号住	10.6~12.5	縄(中後)	鉢形土器	(15.4)	—	—	沈線・隆文・内外面磨き・内黒	5YR4/4にぶい赤褐	細密（白・黒）	30	254
第19図	2	9・10号住	埋甕	縄(中後)	深鉢	(34.0)			ハの字文・沈線	5YR5/6明赤褐	粗（白・赤・雲）	15	526
第20図	3	9・10号住	22.1	縄(中後)	筒形土器	—		—	肩部に貝状の小突起貼付	10YR6/4にぶい黄橙	密（白・石・雲）	—	60
第20図	4	9・10号住	21.3	縄(中中)	深鉢		—	—	沈線・縄文	7.5YR6/6橙	密（白・黒）	—	19
第20図	5	9・10号住	24.2	縄(中後)	深鉢	—	—	—	隆刻文・沈線	7.5YR6/6橙	密（白・黒）		17
第20図	6	9・10号住	18.2	縄(中後)	深鉢	—	—	—	ハの字文	7.5YR6/6橙	細密（白・黒）		88
第20図	7	9・10号住	22.5	縄(中後)	深鉢	—	—	—	ハの字文	10YR3/3暗褐	やや粗（白・黒・雲）		48
第20図	1	遺構外	—	縄文(中)	深鉢	—	—	—	沈線・棒状把手欠損	7.5YR5/4にぶい褐	密（白・黒）	—	483
第20図	2	遺構外	—	縄(中中)	台付土器	—	(14.4)	—	角押文・沈線	7.5YR5/6明褐	やや粗（白・黒・雲）		1,254
第20図	4	遺構外	—	縄(中中)	深鉢			—	沈線・橋状把手欠損	7.5YR5/6明褐	粗（白・黒・石）	—	157
第20図	5	遺構外	—	縄(中中)	深鉢				沈線	7.5YR5/4にぶい褐	やや粗（白・黒・石・雲）	—	78
第20図	6	遺構外	—	縄文(中)	深鉢		—	—	角押文・沈線	10YR4/2灰黄褐	やや粗（白・黒）	—	101
第21図	7	遺構外		縄(中中)	深鉢	—	—		結節縄文	7.5YR6/6橙	やや粗（白・赤・黒）		46

第３表　石器観察表

図版	番号	注記番号	出土地点	標準床面レベルとの比高差(cm)	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	石材	残存(%)	重量(g)	備考
第９図	6	107	１号住	−4.5	打製 or 磨石	10.15	5.3	1.3	ホルンフェルス	100	69	
第９図	7	231	１号住	3	剥片石器	10.4	10	1.7	凝灰岩	100	120	
第９図	8	92	１号住	11	打製 or 磨刃	9.9	6.2	2.3	頁岩	100	100	
第９図	9	100	１号住	3.2	打製石斧	12.5	7.8	2.3	硬砂岩	80	211	
第10図	10	104	１号住	2.2	磨石	12.8	9	4.35	安山岩	100	779	表裏両面に凹み有
第10図	11	11	１号住	11.5	磨石	12.2	4.6	3.7	凝灰石	80	349	敲石又は磨石の転用
第10図	12	119	１号住	10.4	凹石	17.4	7.9	6.5	安山岩	100	985	表裏側４面に凹み有
第10図	3	210	２号住	7.5	石錐	3	4	0.7	チャート	95	5.6	
第10図	4	２住	２号住	−	打製石斧	11.1	5.3	2	凝灰岩	80	129	
第11図	5	２住	２号住	−	磨石	8.2	3.95	2.6	粗粒岩	100	130	磨製石斧の転用
第11図	6	225	２号住	8.1	磨石	12.1	11.9	5.5	安山石	100	1229	ザラつき残る
第11図	7	229	２号住	2.2	凹石	10.25	7.4	3.5	安山岩	100	421	表裏に凹み有
第11図	8	224	２号住	1.3	剥片石器	3.8	1.4	0.55	黒曜石	100	3.2	
第12図	8	259	４号住	−	打製石斧	12.9	4.9	2.1	硬砂岩	100	156	
第12図	9	261	４号住		打製石斧	5.6	3.1	1.6	硬砂岩	40	30	
第12図	10	860	４号住	−	打製石斧	8.5	5.2	1.7	細砂岩	70	79	
第12図	11	342	４号住	−	打製 or 磨刃	13	5.1	1.9	硬砂岩	100	118	
第12図	12	336	４号住	−	打製石斧	11.5	5.3	1.4	硬砂岩	100	91	
第12図	13	338	４号住	−	石匙	3.6	3.7	0.8	チャート	40	13	
第12図	14	340	４号住	−	磨製石斧	8.1	3.7	3.1	粗粒岩	20	113	
第13図	24	2809	５号住	−2.7	石錐	2.8	1.7	0.4	黒曜石	100	1.2	
第13図	25	2814	５号住	2.3	入部磨製石斧	8	12.3	1.1	百岩	100	166	
第15図	26	2821	５号住	3.3	磨製石斧	6.1	6.4	1.5	ホルンフェルス	100	55	
第15図	27	1485	５号住	19.7	剥片石器	9.4	7.3	2.6	凝灰岩	100	205	
第15図	28	2839	５号住	2.2	横刃形石器	13.9	5.3	2	細砂岩	100	125	
第15図	29	1682	５号住	22.1	磨盤	8.4	6.0	1.9	凝灰岩	100	128	
第15図	30	845	５号住	18.7	磨盤	8.2	8.5	2.8	凝灰岩	100	264	
第15図	31	1782	５号住	15.8	小型打斧	8.2	2.2	0.9	頁岩	100	16	
第15図	32	3091	５号住	13.4	小形打斧	9.2	2.5	0.8	凝灰岩	90	17	
第15図	33	3102	５号住	15.2	打製石斧	12.5	6.9	1.9	さんフェルス	100	174	
第16図	34	2810	５号住	7.5	打製石斧	11.3	6.7	2.1	凝灰岩	100	160	
第16図	35	1472	５号住	32.3	打斧 or 横刃	9.7	5.9	1.5	硬砂岩	70	88	
第16図	36	2807	５号住	1.5	打製石斧	11.3	5.3	1.8	細砂岩	100	122	
第16図	37	2818	５号住	10.6	打製石斧	10.5	4.8	1.7	硬砂岩	100	94	
第16図	38	1488	５号住	13.3	打斧 or 横刃	11.5	4.6	1.5	凝灰岩	100	82	
第16図	39	2806	５号住	1.2	打斧 or 横刃	13.3	5.3	12	細砂岩	100	80	
第16図	40	2813	５号住	9.2	打製石斧	9.3	5.2	1.9	硬砂岩	100	107	
第16図	41	2838	５号住	0.5	打製石斧	13.8	46	2.5	硬砂岩	95	184	
第16図	42	754	５号住	30.6	磨製石斧	5.1	3.2	1.2	凝灰岩	80	31	
第16図	43	2801	５号住	3.5	磨石	11.5	6.2	4.6	凝灰岩	100	593	表裏両面に凹み有
第16図	44	3283	５号住	−45.9	敲石	9.3	8.0	4.5	安山岩	100	412	表裏両面に凹み有・ザラつき残る
第17図	45	2800	５号住	0.4	磨石	8.5	7.7	5.2	安山岩	100	432	表裏両面に凹み有・ザラつき残る
第17図	46	1479	５号住	9.5	敲石	9.9	6.2	3.2	安山岩	100	240	表裏両面に凹み有
第17図	3	一括	６号住	3.1	磨石	10.1	5.6	3.2	安山岩	100	262	表裏両面に凹み有
第18図	11	2957	７号住	21.2	打斧 or 横刃	11.3	6.8	1.5	硬砂岩	100	122	
第18図	12	2932	７号住	12.8	小型打斧	6.1	2	1	ホルンフェルス	40	17	
第18図	13	242	７号住	28.1	打製石斧	11.4	6.3	2.4	硬砂岩	100	182	

第18図	14	1464	7号住	17.2	敲石	7.1	8.3	4.5	安山岩	50	307	
第18図	15	2956	7号住	14.3	敲石	4.2	3.4	1.8	凝灰岩	100	38	磨き石？
第18図	16	1465	7号住	19.3	磨石	9.8	8.5	4.6	安山岩	95	535	
第18図	17	1458	7号住	28.3	石皿	9.8	8.4	5	安山岩	100	532	
第19図	7	2516	8号住	14.3	石匙	3.0	5.7	0.8	黒曜石	100	10.4	
第19図	8	2621	8号住	21.2	礫器	7.5	8.4	2.8	硬砂岩	100	228	
第19図	9	3339	8号住	16.1	棒状礫	9.8	3.2	1.9	ホルンフェルス	100	117	
第19図	10	2219	8号住	23.2	打斧 or 横刃	11.2	5.1	1.6	硬砂岩	100	98	
第20図	8	一括	9·10号住	—	小型打斧	8.8	3.2	0.6	硬砂岩	100	21	
第20図	9	536	9·10号住	15.5	打製石斧	13.5	7.9	2.1	凝灰岩	100	224	
第20図	10	一括	9·10号住	—	棒状礫	10.5	3.5	2.9	凝灰岩	100	136	
第21図	8	2643	遺構外	—	石鏃	2	1.7	0.6	黒曜石	100	0.6	
第21図	9	イコウ外	遺構外	—	石鏃	2.4	1.6	0.4	黒曜石	100	1.1	
第21図	10	イコウ外	遺構外	—	石鏃	2.5	1.5	0.4	チャート	100	1.3	
第21図	11	イコウ外	遺構外	—	石匙	4.8	5.6	0.9	ホルンフェルス	100	23	
第21図	12	イコウ外	遺構外	—	石匙	2.4	5.1	1.0	チャート	100	11	
第21図	13	1508	遺構外		打製石斧	10.5	4.5	1.6	凝灰岩	70	81	
第21図	14	2221	遺構外	—	打製石斧	8	4.9	1.8	凝灰岩	70	64	
第21図	15	3088	遺構外	—	打製石斧	14.75	5.3	1.6	硬砂岩	90	154	
第21図	16	23	遺構外		打製石斧	10.9	5.6	2.0	硬砂岩	100	140	
第21図	17	1次	遺構外	—	打製石斧	8.3	3.15	1.7	硬砂岩	100	61	
第21図	18	1510	遺構外		打斧 or 横刃	7.0	3.8	0.9	凝灰岩	100	18	
第22図	19	1次	遺構外		剥片石器	7.2	7.3	1.9	硬砂岩	100	82	
第22図	20	2次	遺構外	—	礫器	8.3	9	1.7	硬砂岩	100	147	
第22図	21	イコウ外	遺構外	—	打製石斧	10.7	5.5	1.7	硬砂岩	100	126	
第22図	22	2573	遺構外	—	打斧 or 横刃	10.2	4.6	1.2	凝灰岩	100	56	
第22図	23	1次	遺構外		打斧 or 横刃	11.9	4.4	1.6	硬砂岩	100	93	
第22図	24	1次	遺構外	—	打製石斧	11.1	5.7	2	凝灰岩	70	159	
第22図	25	1503	遺構外		凹石	1.35	8	5.3	安山岩	100	586	表面に凹み有
第22図	26	1687	遺構外	—	磨製石斧	7.5	4.4	2.3	蛇紋岩	60	114	
第22図	27	2次	遺構外		凹石	8.9	7.9	5.3	安山岩	100	460	表裏両面に凹み有
第22図	28	イコウ外	遺構外	—	石匙	1.05	2	0.3	黒曜石	80	0.4	

第4表　土製品観察表

図版	番号	出土地点	標準床面レベルとの比高差(cm)	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備考	色調	胎土	残存(%)	重量(g)
第9図	5	1号住	—	台形土器	—	—	2.4	円盤形	10YR5/4にぶい黄褐	やや粗(白·赤·雲)	—	66
第11図	5	4号住		土製円盤	(5.2)	(5.2)	0.7	底部を利用	5YR5/6明赤褐	やや粗(白·黒·雲)	—	10
第14図	22	5号住	9.8	土偶左足	3.7	3.9	6.6	踵に炭化物付着	10YR5/4にぶい黄褐	細密(白·石·雲)	—	81
第14図	23	5号住	2.1	土偶頭部	4.9	4.1	3.8	角押文·眉欠損·目鼻口省略もしくは欠損	10YR5/4にぶい黄褐	細密(白·赤·黒)		54
第18図	10	7号住	—	焼成粘土塊	3.2	2.3	1.6	—	10YR6/4にぶい黄橙	やや粗(白·黒·雲)	100	8
第20図	3	遺構外	—	台形土器	—	—	3.4	円盤形·表裏面の凹みは焼成後の加工	7.5YR6/6橙	やや粗(白·赤·黒·雲)		152

第5表　遺構別土器一覧

時期		1住	2住	3住	4住	5住	6住	7住	8住	9・10住	1土	2土	3土	9土	13土	16土	17土	19土	20土	25土	29土	30土	31土	32土	1次遺構外	2次遺構外	合計
前期		8	21	14	58	123	16	350	39	26	2	5	1	0	0	1	1	1	1	0	1	1		1	127	379	1,196
		118	1,005	303	601	1,281	169	6,584	959	335	42	50	17	0	0	10	6	4	12	0	25	26		11	1,350	4,072	16,980
	四门							1																			1
							台)	71																			71
	神之木				11	4	2	20	2	2															5	25	71
					105	43	18	1,269	15	65															46	379	1,940
	中越					6		2																	3	10	21
						39		25																	62	200	326
	縄文のみ(繊維有)	1	2		2	2			1													1				10	19
		25	37		27	24			12													26				157	308
	縄文のみ(繊維無)					8	3		6	2											1				8	21	49
						83	32		70	29											25				177	261	677
	無文（繊維有）	3	15	6	39	75	9	202	30	15		4	1			1	1	1	1					1	80	220	704
		43	934	120	372	832	96	4,239	381	173		40	17			10	6	4	12					11	773	2,337	10,400
	無文（繊維無）	4	4	8	6	28	2	124	20	7	2	1													31	91	328
		50	34	183	97	260	23	970	481	68	42	10													292	693	3,203
	不明							1																		2	3
								10																		43	55
中期		73	8	9	76	354	28	8	118	38	1	6	1	1	1	0	0	0	4	1	0	0		3	226	506	1,484
		6,730	476	112	2,759	19,914	3,553	115	3,667	2,296	18	90	27	8	9	0	0	0	42	10	0	0		43	5,984	10,354	56,207
	新道	23			28	65	2		2	1		2			1				1					1	14	34	174
		1,700			1,591	5,689	52		25	10		34			9				15					12	306	782	10,225
	藤内	35	6	6	24	130	8	5	33	20									2					2	96	132	502
		4,222	307	61	568	8,368	467	71	746	328									16					31	2,719	3,198	21,835
	井戸尻						1																				4
							8																				340
	曽利II																									1	1
																										33	33
	曽利III								2																		2
									57																		57
	曽利IV			1	1				4																1		7
				25	22				92																31		170
	曽利IV～V					8	2		16	7															4	20	57
						224	31		299	375															45	200	1,174
	曽利V	1			3	8	4	3	13	19		1								1					18	79	150
		6			63	584	2,792	44	1,630	1,015		5								10					677	1,630	8,456
	縄文のみ					24	6		10	5	1			1					1						23	58	129
						651	79		165	92	18			8					11						540	943	2,507
	無文	15	1	2	19	96	5		31	6		3	1												64	181	424
		417	17	26	446	2,803	124		602	276		51	27												1,428	3,526	9,743
	不明	1	1		1	23			7																4	1	40
		385	252		69	1,395			51																238	42	3,732
前期 or 中期		52	9	11	46	335	22	53	152	60	2	1	0	1	0	1	0	0	2	2	0	1		2	378	829	1,959
		661	104	69	423	5,612	247	694	1,159	550	32	7	0	2	0	10	0	0	11	16	0	10		15	2,894	6,489	19,005
	縄文のみ(繊維無)					60			17		2	1		1								1	2	1	49	110	244
						810			150		32	7		2								10	22	11	346	984	2,374
	無文（繊維無）	52	9	11	46	275	22	53	135	60						1			2	2				1	329	719	1,717
		661	104	69	423	4,802	247	694	1,009	550						10			11	16				4	2,548	5,505	16,653
中世																									3		3
																									96		96
近現								1																	4	18	23
								191																	52	245	488
不明			4																							7	11
					110																					99	209
合計		135	36	34	184	812	66	411	329	145	5	12	2	2	1	2	1	1	7	3	1	2	2	6	738	1,739	4,678
		7,309	1,585	484	3,893	26,807	3,969	7,393	5,785	3,372	92	147	44	10	9	20	6	4	65	26	25	36	22	69	10,376	21,259	93,007

上段：数量　下段：重量

第6表　遺構別石器一覧

	1住	2住	4住	5住	6住	7住	8住	9・10住	遺構外	合計
石鏃		1		2			2		6	11
		0.3		1.7			1.1		4.8	7.9
石鏃（黒曜石以外）									1	1
									0.4	0.4
磨製石斧			1			1			2	4
			113.0			363.0			227.0	703.0
打製石斧	4	1	7	19		3		2	36	72
	426.0	63.0	588.0	1772.7		433.0		245.0	3502.0	7029.7
横刃形石器				6					8	14
				520.0					726.0	1246.0
打斧 or 横刃	1		1	3		1	1		4	11
	100.0		118.0	223.0		122.0	98.0		253.0	914.0
掻器	1		1	8				1	4	15
	24.0		48.0	571.0				272.0	293.0	1208.0
石匙		1	1				1		1	4
		6.7	13.0				10.4		0.4	30.5
石錐（黒曜石以外）	1	2		2					5	10
	43.0	21.6		161.0					278.8	504.4
磨石	3	3		6	1	9			27	49
	1301.0	1780.0		2578.0	262.0	2485.0			10981.0	19387.0
敲石								2		2
								560.0		560.0
凹石	1									1
	985.0									985.0
石皿						1				1
						532.0				532.0
礫器				5			2		3	10
				753.0			1023.0		620.0	2396.0
棒状礫	4							2		6
	144.0							257.0		401.0
剥片石器	1	2		5			2	1		11
	120.0	16.2		528.0			224.0	23.0		911.2
黒曜石原石		2		1		1	1		8	13
		32.0		14.8		27.1	27.0		241.6	362.5
黒曜石石核		12	9	26		12	34	5	151	249
		99.2	34.5	116.1		80.3	94.0	13.4	478.9	916.4
黒曜石剥片			5	11	4	9	29	12	137	207
			5.3	13.7	4.3	13.6	24.1	8.9	128.8	198.7
黒曜石小剥離のある剥片				2	1		2	1	2	8
				1.9	1.8		2.9	1.4	3.7	11.7
合計	16	24	25	90	6	37	74	26	387	685
	3143.0	2039.0	919.8	7254.9	268.1	4056.0	1504.5	1380.7	17739.4	38303.4

上段：点数　下段：重量

図版1　黒沢遺跡調査区遠景（東から）

図版2　黒沢遺跡調査区近景（東から）

図版３　第１次調査風景

図版４　１号住居跡遺物出土状況

図版５　１号住居跡完掘状況

図版６　２号住居跡完掘状況

図版７　３号住居跡完掘状況

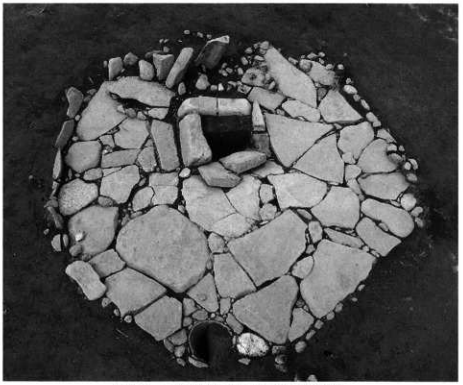
図版８　第２次調査風景

図版９　５号住居跡遺物出土状況

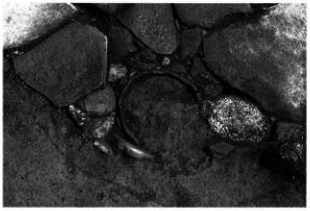
図版10　土偶左足出土状況（５号住）

図版11　5号住居跡完掘状況

図版12　5号住居跡炉跡半截状況



図版13　6号住居跡（敷石住居跡）検出状況



図版14　6号住居跡埋甕検出状況

図版15　6号住居跡掘り方検出状況

図版16　6号住居跡炉跡奥砂利検出状況①

図版17　6号住居跡炉跡奥砂利検出状況②

図版18　7号住居跡遺物出土状況

図版19　7号住居跡完掘状況

図版20　8号住居跡遺物出土状況

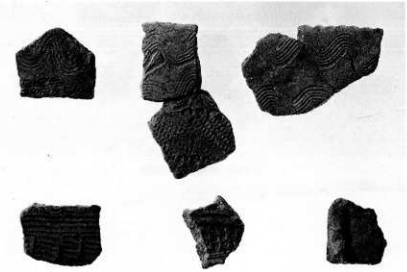
図版21　8号住居跡完掘状況

図版22　9・10号住居跡完掘状況

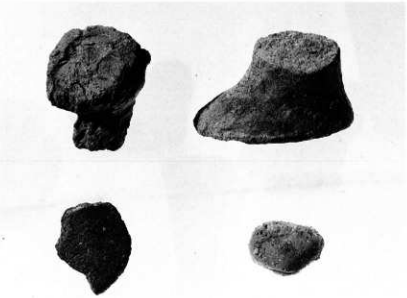
図版23　壺形土器出土状況（9・10号住）

図版24　前期前半の土器①

図版25　前期前半の土器②



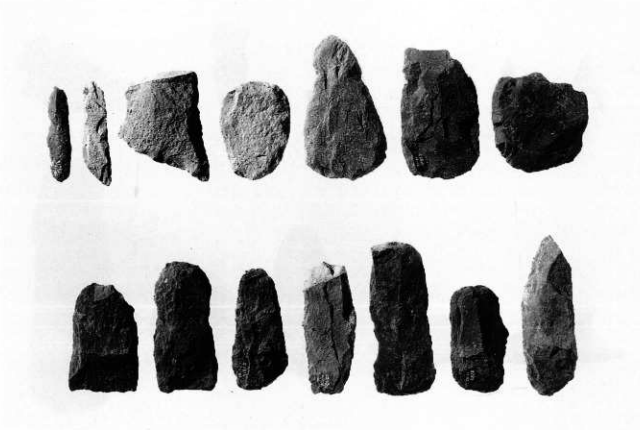
図版26　前期前半の土器③



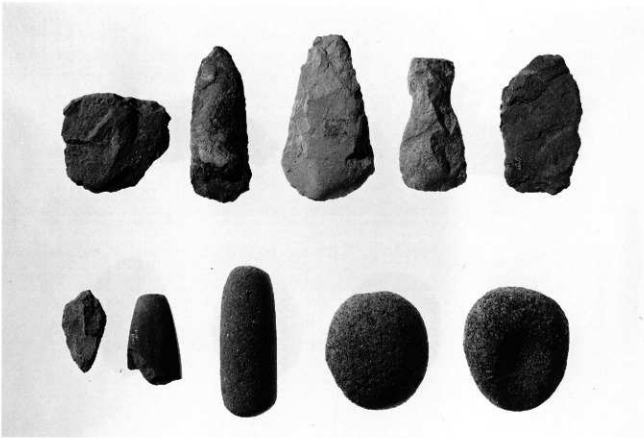
図版27　出土土製品

図版28　中期中葉の土器

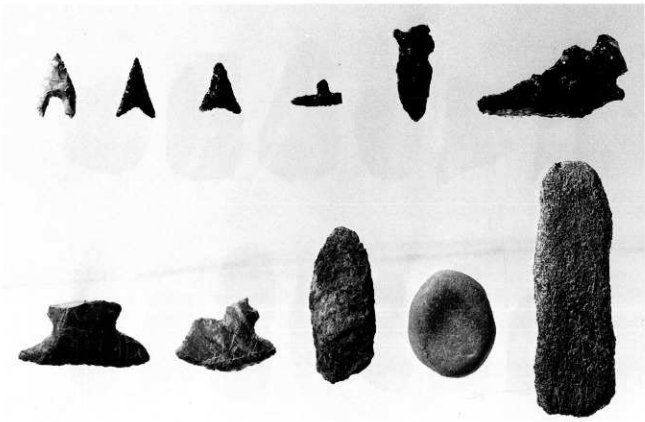
図版29　中期後半の土器



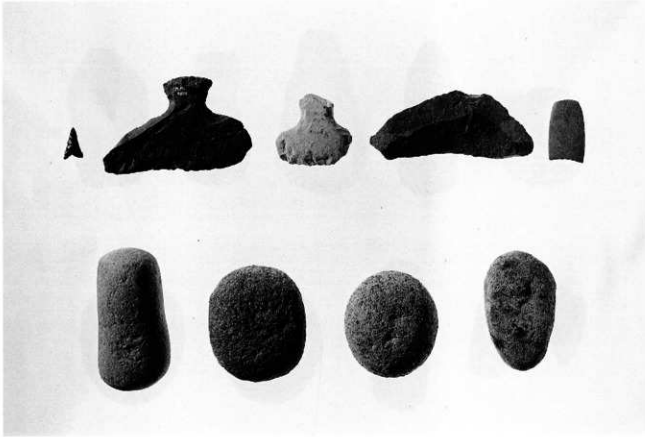
図版30　出土石器①



図版31　出土石器②



図版32　出土石器③



図版33　出土石器④

報告書抄録

ふりがな	くろさわいせき　だいいち・にじちょうさ
書名	黒沢遺跡　第1・2次調査
副書名	個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第10集
編著者名	坂口広太
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町人豆生田961-1　TEL 0551-42-1373
発行年月日	西暦　2005年　3月　31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
黒沢遺跡（くろさわいせき）	山梨県（やまなしけん）北杜市（ほくとし）武川町（むかわまち）黒沢字下原地内（くろさわあざしもはらち）	192091	7022	35° 46′ 33″	138° 22′ 52″	第1次調査 19971201～ 19980317 第2次調査 19980430～ 19980901	第1次調査 175 第2次調査 541	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒沢遺跡	集落	縄文時代	住居跡10軒、土坑44基	縄文土器、石器、土偶	敷石住居跡1軒

要約	縄文時代前期前半・中期中葉・中期後半の集落跡。

黒沢遺跡第２次調査で発見された敷石住居跡は、現在北杜市武川教育福祉センター前庭（北杜市武川町三吹2161－1）にて復元展示しています。　（平成15年11月１日撮影）

北杜市埋蔵文化財発掘調査報告　第10集

黒沢遺跡　第１・２次調査

個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2005年３月25日　印刷
2005年３月31日　発行

編集・発行　北杜市教育委員会
〒 408－0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961－１
TEL 0551－42－1373

印　　刷　株式会社　サンニチ印刷
〒 400－0058　山梨県甲府市宮原町608－１
TEL 0551－241－1111